

総合計画／実施計画書 兼 事務事業評価シート

事業期間 H21 ～ H23

担当部局	部局名	産業経済部
	課室名	商工観光課

1. 基本施策名等（基本計画における「基本施策名」等を記入）	
基本施策ID	基本施策名
5 - 1 - 3	世代・地域を越えて、多様な交流を育む環境をつくる
重点施策ID	重点施策名
- - -	【体系外】

2. 事業名等	
事業名	観光情報発信強化事業
事業区分	② ①新規 ②継続 ③その他 ()
細事業名	① ①毎年 ②隔年 ③その他 ()
事業主体	市
事業種別	① ①自治事務 ②法定受託事務
実施期間	平成 17 年度 ～ 平成 23 年度 根拠法規
各種の計画への反映 (=根拠計画) 豊後大野市観光まちづくりビジョン	
事業ID	

3. 事業の内容等	
事業の背景 近年、観光客はインターネットや観光情報誌などを通じて情報を得ており、それらの情報媒体への露出度を高めることが重要となっている。	補助事業 名称 補助率 国 県 その他 1/ 1/ 1/
	起債の種類 ① ② ③
	事業の目的及び対象 【目的】 ホームページの充実強化を図るとともに、雑誌等各PR媒体、まちの駅ネットワーク等も活用し、効果的な観光PRを図る。 【対象】 交流客
事業概要 効果的・多角的宣伝活動、観光誘客活動の推進、観光インフォメーションの充実。 (21年度：18,450千円、22年度：18,500千円、23年度：18,500千円) イベント事業の実施 (21年度：38,576千円、22年度：38,500千円、23年度：38,500千円)	
前年度の評価 E 評価結果に基づき見直した内容 維持 福岡都市圏への観光PRの強化	

4. 予算・決算の状況 (単位：千円)							
財源内訳	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23～
予 算	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源	63,484	20,281	34,412	19,892	57,026	57,000
計	63,484	20,281	34,412	19,892	57,026	57,000	57,000
決 算	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他	1,854					
	一般財源	60,688	20,281	26,297	18,454		
計	62,542	20,281	26,297	18,454			

5. 実績及び達成目標等			
過去3年間の事業実績と課題			
平成18年度	平成19年度	平成20年度	課 題
【実績】 広告宣伝情報発信 20,281千円	【実績】 広告宣伝情報発信 23,762千円 道路標識整備 2,535千円	【実績】 広告宣伝情報発信 18,414千円 道路標識整備 40千円	様々な媒体を活用した情報発信や各種団体との連携強化による情報発信機能の強化。

達成目標と前年度までの進捗状況……事業成果の目標となる指標と目標数値							
活動指標	情報発信事業数						
効率指標	-						
成果指標	交流人口						
単 位	千人						
年 度	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	備 考
種 別			交流人口	交流人口	交流人口	交流人口	
目標値				2,734	2,761	2,789	
実績値			2,734	2,690			
達成率				98.4%			
備 考							

総合計画／実施計画書 兼 事務事業評価シート

評価対象年度 H20 年度

評価実施年度 H21 年度

担当部局	部局名	産業経済部
	課室名	商工観光課

6. 前年度の事業評価				評価に関する視点	
事業の 必要性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	5	時代や市民ニーズの変化への対応、事業目的の緊急性、重要性、さらには他の自治体の動向等を踏まえて評価する。	
理由	本市は数多くの歴史文化資源や自然資源、豊かな農林産物など多彩な資源を有している。こうした条件を生かし、体験交流事業を組み立て実施し、交流客の増加を図るためには、本市の魅力を各種メディアを通じて情報発信し、豊後大野市の知名度の向上を図ることが重要である。				
行政の 与	1 2 3 4 5 不要 ← → 必要	評価	3	この事業は行政が実施しなければならない事業なのか、民間でサービスを提供できないのか等、民間との役割分担を考慮して評価する。	
理由	当事業の組み立てや実施は、行政の支援が必要であるが、事業が軌道に乗れば、徐々に民間へ移行していきける。				
手段の 妥当性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	3	行政がこの事業を行うこととした場合、事業実施の方法は妥当か、効率的な方法なのか等、外部委託や受益者負担等を含めて評価する。	
理由	観光ホームページや紙面を活用したPR、写真コンテンツなど多角的・効率的な観光情報の発信と誘客が図られた。情報発信の面では引き続き行政が主体となって実施することが効率的である。				
事業の 効果	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	3	事業の効果は上がっているのか、事業は効率的に実施できたのか、事業経費は事業実績と比べてどうか等、費用対効果も含めて評価する。	
理由	事業の効果が即向上するとは期待できない。豊後大野市の資源を生かした体験交流事業を実施し、それを、あらゆる機会を通じ情報発信することで、豊後大野市の知名度を向上させ、交流客の増加を図ることが必要である。また、21年度から事業費が大きく増加しているが、イキイキ事業の終了に伴いイベント事業費が増加したためである。				
事業の 算	1 2 3 4 5 減額 ← → 増額	評価	3	全ての行政経費の削減が求められる中で、予算を減額できないか、できないのであればその理由はなぜか等、事業経費の面について評価する。	
理由	ホームページや観光パンフレット、ポスターなど観光振興を図る上での環境は整いつつあるが、さらに民間との協働のもと情報発信の必要があり、現状維持が必要である。なお、予算の増加については、イキイキ事業の終了に伴い、イベント関連事業が商工観光課の主管となったことによるものである。				
人 体 制	1 2 3 4 5 減員 ← → 増員	評価	3	事業経費と同様、職員全体を削減せざるを得ない状況の中で、組織の見直し、グループ制の活用、外部委託等の様々な手法を含めて評価する。	
理由	兼務のため現行並みの人員が必要である。				
事業 規模	A B C D E F 廃止 終了 統合 縮小 維持 拡大	評価	E	今後の事業規模の方向性について、事業の必要性、緊急性、事業経費や担当職員数の増減等を検討し、社会情勢や市民生活への影響等も十分考慮した上で、事業全体としてどのような方向へ進めていくのかを総合的に判断する。	
理由	観光振興を図る上では、引き続き情報発信することで知名度の向上を図らなければならない。そのため、予算のみならず兼務体制も維持していく必要がある。				
その他、特記事項	事業の内容や事業規模に関する意見、補足説明、事業改善の方向性等、特記すべき事項を記載する。				
<p>平成19年度に策定した「豊後大野市観光まちづくりビジョン」では、「都市の暮らしと農村の暮らしを結ぶ 田園交流都市」を目標に掲げ、その実現に向け多様な資源を活用した「保全」「食」「癒し」「学び」「遊び」の五つを戦略とする「ライブ・ツーリズム」を推進することとした。さらにこの目標実現に向け、市民及び観光関連団体並びに事業者との連携を重視し取り組んでいくこととした。</p> <p>ライブツーリズムを市民と一体となって推進することで、総合計画が目指す「やさしく、たくましく、ともに築く豊後大野市」に、さらには住んでよし訪れてよしの魅力ある豊後大野市づくりに向けた協働のまちづくりが実践できるものとしている。</p> <p>この観光まちづくりビジョンをもとに、各種体験交流事業を組み立て実践し、情報発信することで、交流客の増加を図り、観光振興の面から協働のまちづくりの一翼を担う。</p>					
部 長	課 長	班 長	担 当 者	内線 E-mail @bungo-ohno.jp	